

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 教育学 ) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	中川 彩美
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) シックスクール症候群・化学物質過敏症の批判的オートエスノグラフィー —学校危機管理におけるリスクコミュニケーションの確立にむけて—			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授 中矢 礼美		
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授 坂田 桐子		
審査委員 (Name of the Committee Member)	准教授 櫻井 里穂		
審査委員 (Name of the Committee Member)	准教授 三輪 千明		
審査委員 (Name of the Committee Member)	講師 齊藤 英介 (モナシユ大学)		
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本研究は、化学物質過敏症が発生した学校の事案について、筆者による当事者としての批判的オートエスノグラフィー、関係者へのインタビュー、関連資料の分析によって、当事案におけるリスクコミュニケーションの課題を明らかにし、文科省による学校危機管理ガイドランの改善に向けた提言を行うものである。</p> <p>論文の構成は、次のとおりである。</p> <p>第1章では、文科省による「学校の危機管理マニュアル作成の手引」(2018)について、危機管理分野全般でよく用いられている Mitroff(1988)の5段階モデルを用いて分析し、学校の公害に関する危機管理体制の諸課題を検討した。</p> <p>第2章では、シックスクール症候群／化学物質過敏症、学校危機管理、リスクコミュニケーションに関する先行研究の検討を行った。</p> <p>第3章では、本研究の方法論として、関連会議資料、新聞記事の文献調査、半構造化インタビュー、および批判的オートエスノグラフィーを用いることを示した。</p> <p>第4章では、本研究で焦点を当てる事案の背景と問題のタイムラインを示し、Mitroffの5段階モデルのうち③封じ込め／被害抑制、④回復、⑤学習の段階の危機管理対応を描き、検討を行った。</p> <p>第5章では、学校危機管理におけるリスクコミュニケーションの取り組みに向けた問題点についての考察を行い、今後の学校危機管理の改善に向けて提言を行った。</p>			

本論文は、次の4点で高く評価できる。

1. 化学物質過敏症が発生した学校の事案について、インターセクショナルリティーの観点から、文献調査とインタビューから理解できる多様な立場の人々の経験や思いを織り交ぜながら、当事者としての批判的オートエスノグラフィーによって、危機管理プロセスを描写するという画期的な手法を用いていること。
2. 当時案におけるリスクコミュニケーションの問題として、1)危機管理プロセスのフェードアウト、2)新校舎建築段階における教育委員会と学校間での情報共有不足、3)有症者・非有症者間でのリスク認知・認識の違いに起因する問題、4)化学物質濃度の数値の低減にのみ注目した対応方針、5)ステークホルダーの定義づけと役割の不一致、6)専門知識が少なく、専門家も不在の中での議論、7)議論の場の縮小化を指摘したこと。
3. Mitroffの危機管理5段階モデルを用いて化学物質過敏症が発生した学校の事案を検討し、学校の危機管理における問題として、①前兆の発見や⑤学習の段階が欠落している点を指摘したこと。
4. 今後の危機管理手引きの改善に向けて、1)リスク認知のすり合わせ、2)ステークホルダーと役割の適切なマッチング、3)不確実性・不可視性を認めた上での情報収集、解釈・共有、4)被害を被った人々が議論において排除・差別されたり、より危機に晒されないよう配慮すること、について具体的な提言を行ったこと。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士(教育学)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 6年 2月 5 日

備考 要旨は、A4版2枚(1,500字程度)以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed A4 size, 2 pages (about 500 words).)